

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470900202		
法人名	医療法人 積善会		
事業所名	グループホーム和の里		
所在地	大分県豊後高田市呉崎755-33		
自己評価作成日	平成22年1月23日	評価結果市町村受理日	平成22年3月31日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ap.oita-kaigo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4470900202&amp;SCD=320">http://ap.oita-kaigo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4470900202&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(株)アーバン・マトリックス評価事業部 大分事業所
所在地	大分県中津市耶馬溪町大字大島2640
訪問調査日	平成22年2月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

安心でき、安らぎを持てるケア・住空間の提供を第一に日々努力をしている。職員ひとりひとりが、利用者ひとりひとりに向き合い、地域の一員として穏やかな毎日が過ごせるようにサポートいたします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・「昭和の町」豊後高田市における、唯一の地域密着型サービス事業所となる。  
 ・母体となる医療機関(精神科・神経科)や老人保健施設・特別養護老人ホーム・デイサービス等との充実した連携があり、入居者・家族の日々の暮らしが、安心して過ごせるよう取り組んでいる。  
 ・アセスメントが充実しており、生活歴や趣味、得意分野等の把握に努め、一人ひとりの全体像の把握に努めている。  
 ・長閑な周辺環境と法人としての広い敷地の中に位置しており、ホーム前には神社もあり、戸外に出やすい恵まれた周辺環境を有している。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域と事業所の関係性を高めた理念を造り上げている。職員が常に見えるところに表示して、理解しあい、ミーティング等で具体的に掘り下げて話し合うようにしている。	地域密着型サービスとしての意義を踏まえた、独自の理念を、玄関ホールに掲示している。職員のみならず、来訪者への共有を育みながら、日々実践に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩に出かけ、近隣の人たちと声をかけ、神社の境内の掃除をしたり、飼犬と遊んだりしている。ホームのすぐ前に病院が新しく建ち、人通りが多くなった。以前に比べて声かけや立ち寄りも多くなっている。	周辺には民家が少ないが、地域行事には積極的に参加しており、地域の祭りでは、子供御輿の巡行を受けたり、近隣の障害者施設の行事に参加する等、交流の機会を持っている。散歩の途中等、日常の中での、挨拶や会話を大切にしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老人会の集まりや、認知症の人と家族の会にて認知症の学習会をしている。地域の方からの認知症の相談を受けている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当ホームの現状を報告して、外部評価の改善点や検討事項等話し合い、意見を参考にし、実践していくようにしている。	定期開催されている運営推進会議には、入居者の参加があり、家族・民生委員・市介護保険課職員・母体法人事務長等の出席により、状況報告・外部評価について・インフルエンザ対策等について、意見交換が行われている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の方も気軽に来訪していただき、認知症の理解や現場や利用者の課題解決のため、支援と交流を行っている。	豊後高田市役所担当者が、ホームを気軽に訪れる関係があり、行政主催にて開催される「井戸端会議」にも時折参加している。市内唯一の地域密着型サービス事業所として、行政との密な連携に努めている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング等で全職員が認識し、拘束のないケアを実践している。	法人として、身体拘束防止委員会を設置している。また運営推進会議においても、身体拘束についてや施錠に関する話し合いが行われており、認識を高めている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員それぞれが、高齢者虐待に関する情報を持ち寄り検討を行う機会を設けている。また、職員各々が互いの行動言動に対して意見を出し合い虐待の根絶をチェックしている。		

# グループホーム 和の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当ホームには、1名の利用者が入居時、成年後見制度を利用され、被保佐人となる。・機会あるごとに職員と話し合い、研修にも参加している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に丁寧に説明し、当ホームの理念を説明し、特にケアに関する考え方や取組みを詳しく説明している。利用料金や起こりうるリスク、看取り、医療機関との連携、退去時の対応等を説明し、同意を得ている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言動を察知し、その思いを察する努力をし、介護相談員や病院の相談員、医師、家族に利用者とは話し合う機会を作っている	家族の来訪も多く、家族参加の行事も年4回程度実施しており、家族間の連携も育みながら、意見を言いやすい関係づくりに取り組んでいる。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・月1回のミーティングや勉強会るとき、意見を出しやすい雰囲気作り、コミュニケーションを図るように努めている。・いつでも気軽に職員の意見や要望を聞き出せるように努めている。	毎月、法人代表者と職員が直接話せる会議を実施しており、また法人事務長が間に入りながら、風通しの良い運営に努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月、代表者(法人理事長)と職員が直接話せる会議を実施しており、その場で状況報告、職員の希望要望、抱えている問題などの相談を行っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所以外で開催されている研修会や講演会になるべく多くの職員が受講できるようにしていきたいが、業務の都合で思うようにできていないため、併設の老健の研修会や勉強会に積極的に参加している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・小規模多機能の井戸端会議には積極的に参加し、意見や経験を活かしたケアに励んでいる。		

グループホーム 和の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・事前面談を行い、本人の状態を把握するように努め、日頃より本人の思いに向き合い、職員全員が受け入れられるように勤めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入居時に詳しく面談して、家族の想いや悩み等を聞き、事業所としての対応を話し合っている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・入居して、初期は本人の動揺も激しく、情緒不安定になられる場合が多く、本人や家族の思いや状況を確認し、家族や職員と話し合いながら改善に向け対応している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の悩みや思いや苦しみを分かち合いながら、一緒に過ごす時間を持つように努め、本人の話に傾聴するように努めている。時には、合唱したり、踊ったり、楽しい雰囲気作りに努めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族の思いや悩みを気軽に話していただく雰囲気作り、本人の持っている能力を引き出し、職員に対して教えていただく工夫をしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・時々、我が家の周辺をドライブしたり、家族に協力してもらい、温泉に行ったり、孫の発表会に行ったり、馴染みの美容院や友人の家に遊びに行かれるよう働きかけている。毎週日曜日には、馴染みの集会にも行ける様に支援している。	ふるさと巡りに出掛け、昔懐かしい場所や馴染みの方々との関係を結び直している。家族が来訪しやすい雰囲気づくりや、家族参加行事を積極的に行っている。毎週定期的な集会や奉仕活動に出掛けている方もおり、サポートしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者の個性を尊重し、気の合う人が気軽に話しが出来、一緒に過ごせる時間を作ったり、役割分担して利用者のできる家事を調整し、利用者同士の関係を円滑にできるようにしている。		

グループホーム 和の里

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移られた方にも頻繁に会い、声かけをしたり、当ホームでのイベントに招待して継続的な関わりをしている。亡くなられた利用者の家族や、他の施設に移られた利用者の家族も時々遊びに来られている。	
<b>、その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや希望を把握できるように、常に声かけや寄り添い、言葉の表情でその思いを把握し、利用者の思いを家族とともに支えあう支援に努めている。	詳細かつ丁寧なアセスメントが実施されており、生活歴や趣味・得意分野等の把握に努めている。日々の暮らしの中での、言葉や表情、行動等から、その真意をくみ取り、本人本位の支援に努めている。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にヒアリングをして、生活歴やその人のライフスタイルを聞いてはいるが、充分でない場合は本人や家族、関係者に聞き取りを行っている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の生活リズムを把握し、出来る事をしていただき、心身の状態は日々記録して、ミーティング等で個別に話し合っている。	
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のカンファレンスを行い、個別に話し合い、利用者が望むケアや課題について具体的な方法を職員全員で話し合い、介護計画の作成に活かしている。	本人の希望を主体として、具体的な支援の方向性を担当職員を中心とする職員全員で話し合いを行い、介護計画作成に活かしている。毎月のカンファレンス、2ヶ月に1回の評価を実施し、現状の確認及び状況の変化に対応している。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人、家族の状況に応じて、通院や送迎等、必要なサービスは柔軟に対応している。	
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて、通院や送迎等、必要なサービスは柔軟に対応している。	

グループホーム 和の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・利用者が安心して暮らせるように、消防、民生委員、ボランティア、他の施設、病院と連携をとって協力を呼びかけている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・事業所の嘱託医が、週1回往診されるが、利用前からのかかりつけ医での医療を受けられるように家族と連携をとって通院介助を行っている。	入居前からのかかりつけ医との関係を、大切に支援している。協力医療機関から週1回の往診があり、家族・職員間での連携も行いながら、適切な医療支援となるよう取り組んでいる。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・併設の老健看護師と常に連携をとっている。当ホームに以前勤めていた看護師が居るため気軽に相談でき、医療機関との連携が密にとれる体制が確保されている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時、本人の情報を医療機関に提供し、頻繁に職員が見舞い、病院関係者と話し合い、退院に向けて家族とともに支援するように努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・本人や家族の思いを大切に、医師・職員・家族が連携し、安心して終末期を迎えるように取り組んでいる。	入居時に、重度化や終末期に関する方針を家族に示し、確認している。家族・職員・医療関係者等による連携、また法人としての充実した支援体制の中で、本人・家族が安心して暮らし続けられるよう取り組んでいる。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設の老健看護師に連絡して、処置や指示を受けている。マニュアルを用意して、緊急時に対応できるように努めている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・マニュアルを作成し、年に数回利用者とも避難訓練をしている。消防署との連携もしている。	隣接する同法人施設と連携し、相互に参加しながら、昼夜を想定した避難訓練が実施されており、入居者の方々も参加している。	

グループホーム 和の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・利用者の尊厳を傷つけない、やさしく、はっきりとした言葉かけに配慮するよう、ミーティングや日々のかかわりの中で職員同士注意し合っている。	接遇委員会(週1回開催)が設置されており、尊厳を損なわない対応や言葉かけについて、意識を高めている。各居室には果物の名前がつけられており、プライバシーへの配慮として、その名を使用する等の配慮を行っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は、出来る限り利用者と寄り添い、言葉かけをして、利用者の思いや表情を引き出す場面を作っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・時間に制約されずに、ひとりひとりの体調や気分に合わせて柔軟に対応している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・その人らしい生活習慣を家族に聞き、家族の協力を得て、本人の意向で決め、行事や外出時には化粧をして、おしゃれを楽しんでいただくよう努めている。美容院は本人の望むところで行っている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・併設の老健が、献立・調理しているのでバランスはとれているが、利用者と一緒に調理は出来ないが、月2回ほど手作り料理をしておやつは時々利用者とスタッフで作っている。	料理の盛り付けやテーブル拭き、後片付け等に入居者それぞれの参加があり、職員も同じテーブルを囲んで、和気藹々とした雰囲気であった。できるだけ形状を残し、ゆっくり時間をかけて自力摂取できるよう、個別の対応が行われている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・併設の老健の管理栄養士による献立なので、バランスのよい食事がとれている。食事も職員と同じ物を食べ、楽しく会話しながら、声かけや見守り食介をして、水分摂取を心がけている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・就寝前に歯磨きをして、週1回義歯をポリデントにつけている。口の中に溜め込むひとは、毎食後口腔ケアを行っている。		

グループホーム 和の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・時間や排泄パターンを把握し、トイレ誘導して、トイレで排泄してもらうようにしている。排尿排便チェックをして、下剤の調整をしている。軽い失禁の利用者には布パンツで対応している。	排泄チェック表により排泄パターンを把握し、一人ひとりの状況に応じた、トイレ誘導及び医師との連携による服薬管理を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・食材の工夫や、乳製品を採り入れ、散歩や家事活動で身体を動かすように心がけている。便秘がちの人に対しては、個別の状態に合わせた使用量や回数となっており、むやみに薬に頼らない工夫をしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・2日に1回の入浴予定日としているが、希望ある人には随時入浴している。入浴拒否の利用者には、無理をせず時間を下げて再度声がけしたり、次の日に声かけを行っている。	坪庭のある露天風呂調の浴室があり、入居者の希望や生活習慣に応じて、柔軟な入浴日の対応がなされている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・日中の活動を促し、昼夜逆転にならないようにしている。その人の睡眠パターンを把握して、就寝時間まで寄り添って、ゆっくり安眠できるように努めている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・個別に記録し、全職員が内容を把握できるようにしている。服薬による症状の変化がある場合、主治医に連絡し指示を受けている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人その人の出来る力を最大限に発揮できるように、出来る事を頼み、感謝の言葉を忘れないように努めている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・閉じこもりがちのひとに、散歩や外出等するように家族とともに雰囲気を作り、歩行困難な利用者には、車イスにて散歩やドライブに出かけるように努めている。	天候や状況にあわせて、家族の協力も得ながら日常的に戸外に出掛けられるよう支援している。周囲は長閑な田園風景が広がり、ホーム前には神社もあり、外出しやすい環境にある。	個別の外出や、特別の外出の機会を大切に支援していくためにも、環境整備の更なる充実に期待します。

グループホーム 和の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・金銭管理能力が困難な人が多いため、支援は行っていないが、1,000円程度の小銭を持たれている利用者もいる。ひとりの利用者は、娘と会う機会が頻繁にあり、お金が無くなれば小遣い程度をもらっている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話したり、家族への手紙に思いを込めて書く練習をしたりして、家族との絆を深める工夫をしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・日中は、居室や和室で過ごされ、利用者に親しみやすい音楽、御香のたいている香り、花や本、観葉植物が沢山有り、居心地よく過ごしていただくように努めている。	中央に掘り炬燵のある和室を配置し、回廊式となっている。中庭では、すずめが巣づくりをしており、時折眺めに行く方もいる。十分な広さのある共用空間は、季節に応じた飾り付けがなされており、テーブル・椅子・ソファが配置され、思い思いの場所でくつろげるよう配慮されている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・廊下に2ヶ所のベンチを置き、手作りの作品、絵画などがあり、ソファではゆっくりテレビをみたり、音楽を聴いたり、お話をされている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室は個々に違うが、家族と相談しながら家具などを置いているが、馴染みのものは少なく、殺風景であるが、本人が必要と思われる物や昔の写真を置いている利用者もられる。	洗面台やクローゼット・ベッドが備え付けられており、家族の写真や使い慣れた物が持ち込まれている。全体的にシンプルな居室が多いが、明るく、清潔感のある居室となっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・利用者の状態に合わせて、介護ベッドを使用したり、廊下や居室、トイレ、浴室の床など、転倒を防ぐよう安全確保に努めている。		